



平成 21 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 東和メックス株式会社
 代表者名 代表取締役会長兼社長 村田三郎
 (コード番号 6775 東証第 2 部)
 問合せ先責任者 経営管理本部長 佐藤武雄
 (TEL. 03 -5684 -2321)

業績予想の差異及び修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 5 月 11 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）業績予想との差異及び平成 22 年 3 月期通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の業績予想について修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値と実績値との差異（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	2, 9 0 0	△ 1 3 0	△ 1 5 0	△ 1 5 5	△ 2. 1 6
実 績 値 (B)	2, 4 2 8	△ 2 3 4	△ 3 3 3	△ 3 2 4	△ 4. 5 2
差 額 (B-A)	△ 4 7 2	△ 1 0 4	△ 1 8 3	△ 1 6 9	—
差 額 率 (%)	△ 1 6. 3	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	2, 7 0 7	△ 2 3 5	△ 2 3 6	△ 3 5 2	△ 4. 9 0

平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値と実績値との差異（平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 21 年 9 月 30 日）

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	1, 7 0 0	3 0	1 0	7	0. 1 0
実 績 値 (B)	1, 4 4 2	△ 9 7	△ 1 3 4	△ 1 1 2	△ 1. 5 6
差 額 (B-A)	△ 2 5 8	△ 1 2 7	△ 1 4 4	△ 1 1 9	—
差 額 率 (%)	△ 1 5. 2	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	1, 8 8 1	3	5	△ 3 3	△ 0. 4 7

平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,500	△110	△140	△150	△2.09
今回修正予想 (B)	5,500	△224	△342	△336	△4.68
増減額 (B-A)	—	△114	△202	△186	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	5,395	△463	△494	△1,079	△15.02

平成 22 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,500	80	50	45	0.63
今回修正予想 (B)	3,194	32	△21	△2	△0.03
増減額 (B-A)	△306	△48	△71	△47	—
増減率 (%)	△8.7	△60.0	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	3,582	△75	△104	△2,030	△28.26

差異及び修正の理由

(連結)

第 2 四半期連結累計期間の主な売上高減少は、当社の S X 事業部における料飲食店チェーンへのストアオートメーション機器及び携帯電話関連の売上が大幅減収、また、海外事業会社の大幅な減収、東和グループ以外の販売代理店向け LED 表示機の売上が減少したためであります。

営業損失の増加は、売上減に伴う売上総利益の減少と中小販社に対する貸倒引当金繰入等によるものであります。

経常損失の増加につきましては、営業損失の増加及び為替差損（90 百万円）の発生によるものであります。

四半期純損失の増加は、経常損失の増加に伴うものであります。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益及び四半期純利益は予想を下回りました。

(個別)

第 2 四半期累計期間の売上高減少は、東和グループ販売代理店向けはデジタルサイネージ効果で伸びましたが、S X 事業部における法人特需携帯電話関連の売上が大幅に落ち込んだことによるものであります。

営業利益の減少につきましては、売上高の減少によるものであります。

経常利益の減少は、売上総利益の減少と為替差損（31 百万円）等によるものであります。

四半期純利益の減少につきましては、経常利益の減少によるものであります。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益及び四半期純利益は予想を下回りました。

第 3 四半期以降の見通しにつきましては、好評に推移しているデジタルサイネージ事業の垂直立ち上げ効果並びに省エネ本命商材であるLED照明及び官公需向け特機商材の投入により国内及びR&D会社に早期収益改善が見込まれます。

一方、懸案の海外事業部門及びSA機器分野については厳しい状況が続く見通しであります。海外事業の再リストラ並びに国内販社グループの再編統合の仕上げの期といたします。

以上の結果、通期業績につきましては、第 2 四半期累計期間の業績が影響しまして連結・個別ともに業績予想を修正しております。

*上記記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

本資料の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の予想数値と異なる可能性があります。